

「まちおこし直江津」的地域への取り組み



◆まちおこし直江津 講演会「みんなの地域学習 2」
直江津今町の町衆文化

◆講師 高橋章則さん 東北大学名誉教授

「江戸時代の文化経済をけん引した人びと」

◆日時 一月五日(日) 集 講 14時30分～

◆会場 まちおこし直江津 協賛 東北大学 協賛 東北大学 協賛 東北大学

◆内容 江戸時代は、江戸・京都・大阪の三都をけん引した人びとが、天下を平定し、江戸を治めた。その中で、江戸時代の文化経済をけん引した人びとが、東北大学で研究されている。高橋先生は、江戸時代の文化経済をけん引した人びとを研究されている。高橋先生の講演を聞いて、江戸時代の文化経済を学ぶことができる。

設立 平成24年4月

設立目的

直江津地域の歴史的・文化的を再発見して

まちづくりの拠点としての場を広く伝える。

どんなことを
やってきた

千代垣素直の碑の発見と復元



発見のきっかけになった
東北大学 高橋先生



地域の物語の紙芝居の制作



説経浄瑠璃 山椒大夫一代記
若松若太夫 泉蔵院

佐渡 文弥人形公演



北前船のまち巡検

佐渡 おでかけ鼓童公演



藩政下 直江津今町に海産物の販売権復活に命を懸けた
義人・福永十三郎翁の遺徳をしのぶ「四十物



徳泉寺・福永忌



頸城運送倉庫で北前展



四十物販売に行列



「北前船がはこんだもの」を
ち歩き 7月3日 探るま

小学生の地域学習
妙高小学校



地域の料理指導



北前船のまち直江津を考える

日本遺産 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～

◆構成要素

直江津の町並み

八坂神社・琴平神社の石燈籠・住吉神社奉納物

米山(山あて)

北前船関連資料・旧直江津銀行(ライオン像のある館)

海上信仰資料(船絵馬・市指定文化財)

直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行(県指定文化財)

米大舟(民謡踊り)



直江津に 無い!

船主の豪邸



富山市 岩瀬

直江津の理由

火事が多かった

船主は港にいる必要はない

津有地区の保坂家は2隻の船

を所有していた 出雲崎海運資料

加賀市 橋立



笏谷石と御影石がある 商品としての「石」を考える



府中八幡社 鳥居 正保2年乙酉8月(1645)
小栗茂吉 敬白 松平光長の家老



居多神社 北参道鳥居 残欠(笠石)
大正天皇即位記念碑に転用



泉蔵院の笏谷石のお地藏さん

鳥居 明治41年建立 石工 尾道・寄居弥七
参道敷石 御影石 昭和3年奉納か?
拝殿基壇 笏谷石 文政13年 寄進帳





琴平神社
 片田長三郎奉納献灯
 安政4(1857)
 直江津盛塩商会奉納献灯
 尾道石工木田秀介
 明治23年

住吉神社
 天明8年(1788)同地に遷座
 手水石
 寛政3年(1791)
 大坂・阿波 藍商人中

明治以降の海運業繁栄を示す神明宮



勝島佐五左衛門がつなげる笏谷石と御影

真行寺勝島家墓地 文化5年(1808)
 尾道産御影石
 八坂神社献灯 文政5年(1822)
 尾道産御影石
 真行寺経蔵 文政10年(1827)
 基壇笏谷石

勝島佐五左衛門
 船持
 廻船問屋
 文化15年(1818)
 今町惣代大年寄



北前船が運んだものから「北前船のまち直江津」の痕跡を探る

上越市 地域の宝「北前船がはこんだもの」 一括代表申請

No.	お宝名称	所有者	所有者住所	備考
1	笏谷石経蔵基壇	真行寺	中央 5-1-1	墓地拝観可 廻船持・問屋の墓碑
2	笏谷石の社殿・社務所敷石 御影石の参道	八坂神社	西本町 4-2-25	御影石の鳥居 尾道石工 寄居弥七社殿基壇の寄進者が分かる・文政 13 年
3	笏谷石の六地藏・地藏堂内の石仏 本堂の土台石	泉蔵院	西本町 4-6-5	高橋達太の墓碑あり
4	墓所への笏谷石の敷石	観音寺	中央 5-2-46	墓地内の笏谷石拝観可
5	笏谷石の鳥居の柱(府中八幡宮拝殿下) 土台石	八幡宮(八幡宮責任役員石井春夫)	西本町 3-5	拝殿下から外に出したい
6	経蔵の笏谷石の土台石 義爺清水の笏谷石の緑石	国分寺	五智 3-20-21	義爺清水緑石が足形にすり減っている
7	北参道の笏谷石鳥居	居多神社	五智 6-1-11	笠石の残欠に転用あり
8	鹽商人が寄進した石灯籠・手水石	住吉神社(責任役員須藤偉之)	住吉町 5-15	千石船の模型あり
9	琴平神社奉納灯籠 3 対	荒川町町内会	中央 3-17-32	尾道石工 木田秀助
10	笏谷石の土蔵戸前装飾	佐藤新治	中央 1-1-5	宝永丸銘の船草笥・直江津商船の木盃

越後国府以来の港 郷津湾

風待ち・冬越し(冬囲い)の湊
 文政11年(1828)に40艘が越 「子の秋船轆轤帳」



夷稻荷神社より神津湾を望む

直江津の北前船の時代は明治から
 高田藩政下から商品売買が自由になる
 汽船の出現で産地と直接売買が可能になる
 電信で正確な相場情報がいいる
 = 物流基地化してい

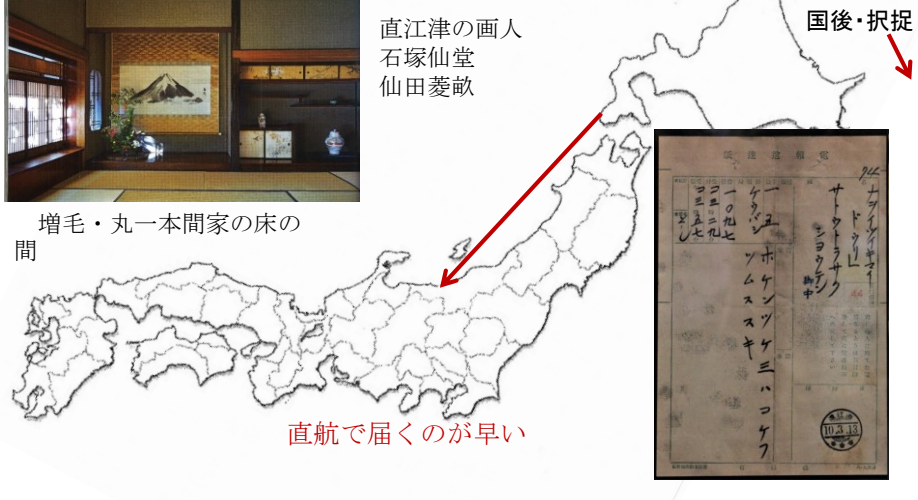


明治41年5月12日 高田新聞

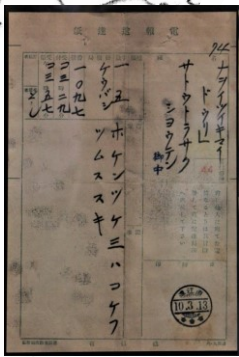


増毛・丸一本間家の床の間

直江津の画人
 石塚仙堂
 仙田菱畝



直航で届くのが早い



人・物が集まり、各地へ物が運ばれる地は「物流基地」に



港湾機能が悪いにもかかわらず
 物流基地としての地理的要
 請
 明治26年



今日のお昼

直江津 北前船 べんとう

日本遺産 北前船寄港地・船主集落



北前船が停んで寄る村 身欠きシシンの尾桁巻 身欠きシシンとタケノコの肴物 歌の子
地 城 倉 村メのフライ さすえイカのめた ぜんまい煮 あげ難煮

©調理 おかずやい〜あんぱい・イラスト ひぐちきみよ・企画 北越出版・まちおこし直江津
北前船フォーラム 令和3年7月10日